

令和5年度 第2回 井伊谷小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年10月13日（金） 午後1時30分から午後4時00分まで
- 2 開催場所 井伊谷小学校 多目的ホール
- 3 出席委員 安戸 哲弘、高林 幸子、中村 朋子、田力 弘美、永田 琢也、
中野 正雄、市川 秀樹、齊藤 啓一
- 4 欠席委員 永野大成（学校支援コーディネーター）
- 5 学 校 石野 政史（校長）、小山 貴広（教頭）、大浦 幹夫（CS担当）
山下いづみ（CSディレクター）
- 6 教育委員会 教育総務課 牧野 知子（指導主事）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 協議事項

（1）本校の教育課題

（2）令和6年度井伊谷小グランドデザインについて

- 9 議 長 中野 朋子委員
会議録作成者 CSディレクター 山下いづみ

10 会議記録

○令和5年度前期いじめ認知件数について、校長あいさつの中で説明があった。

○司会の大浦CS担当から、委員総数8人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）本校の教育課題

○全国学力・学習状況調査について

大浦担当から、①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善②ICTを活用した学習状況③児童の挑戦心、自己有用感、幸福感について、分析結果の説明があった。本校が全国平均に比べて突出しているのは、教師と児童の信頼関係が極めて良好であり、児童の自己肯定感が高くなっている点である。また分析結果から平均正答率が高い児童ほど、自己肯定感が高い傾向にあることが分かった。

そこで、これまで同様、粘り強く課題に取り組む姿勢を認め、授業のユニバーサル・デザイン化（UD化）を進めたり、授業で自分の考えや意見を表現する「アウトプット」の機会を確保したりすることが必要であると報告された。また、書くことの指導、ICT機器の効果的活用、言葉や数、式、表、グラフなどを関連付けた授業に取り組み、授業改善に努めると説明があった。

委員からは以下の質問、意見があった。

- ・高い点数を取るために事前に練習することはないのか。タブレットの利用が想像力を削いでいることはないか。（安戸会長）
- ・学力学・習調査は事前に練習できるような形式のものではない日々の授業の積み重ねが

大切である。(校長) タブレットを使った授業の活用事例を紹介(教頭)

- ・「見つめる会」で授業を参観し、タブレットが効果的に使用されているのを実感できた。(中村委員)
- ・自己肯定感の高いことは喜ばしい。(中村委員)
- ・正答率の低い問題の例をみると、ことばを数字に、数字をことばにする能力が足りないのではないか。これからの学びで大切なのは、資料から読み取り、目的や条件に合わせて、文章に書いたり、表現したりすることだと思う。思考力を育てる授業を進めてほしい。(中野委員)
- ・知識と技能はベースとしてあり、社会生活でアウトプットする能力を求められる。(校長)
- ・正答率の低い問題点がまさにそこにある。様々な資料から情報を取捨選択して表現する力をつけていきたい。(大浦)
- ・タブレットは集中力アップに関しては効果が高いと感じる。記述式に対しては面倒だからという子供が心配である。(市川委員)
- ・バランスは大事、物を作る手先を使うことも大切である。(永田委員)
- ・タブレットはツールであり状況に応じて、実物を使ったり、ICTを活用させたりして等選択させていきたい(校長)
- ・その子供に何が必要なツールかを見極めることが大切。子供が自分たちで選んでいく時代になってきている。(教頭)

○生活のきまりについて

井伊谷小学校の一日の生活について、教頭から説明があった。「井伊谷小のやくそく」の内容についての疑問や質問、意見を求めた。

- ・「シャープペンシル」は使わないとあるが、「必要に応じて」が良いのでは。(高林委員)
- ・現状は鉛筆を使用している。経緯については、以下の理由があげられる。筆圧が低くなってきているため、家庭の経済状況に左右されにくいため、刺激を少なくして授業に取り組ませるためである。(教頭)
- ・清掃の場で三角巾をかぶる必要があるか。(永田委員)
- ・実生活で三角巾をかぶっている場面はないのが現実。来年度の新入生については、購入を止めている。今後検討する。(大浦)
- ・朝は集団登校だが、下校時にこそ見守りが必要ではないか。(永田委員)
- ・下校時の見守りについては、検討する。(校長)
- ・朝の見守りボランティアの方に、帰りの時間帯にしてもらえるかお願いしてみる。(齊藤委員)
- ・警察(交番)の見守りを依頼してはどうか。(市川委員)
- ・見守りボランティアを地域に声掛けをするのも一案。PTAや運営協議会の文書として発信したい。(校長)

- ・職員室への出入りに細かなあいさつは必要か。(齊藤委員)
- ・マナーとして必要である。(安戸会長)
- ・ホッカイロの持ち込みについては、後半部分は削除してもよいのでは。髪の毛は肩についたら縛るという理由は。(安戸会長)
- ・後半部分については検討する。髪の毛に関しては安全面で考えられている。(教頭)

(2) 令和6年度井伊谷小グランドデザインについて

大浦担当から学校教育目標「井の国で 心豊かに たくましく 伸びる子」の実現に向けて、今年度前期の各学年の取組内容と、新規活動の「全校朝ストレッチ」について紹介された。各学年の取組では、授業の目標を達成させるために、「人、もの、こと」と積極的に関わらせる事例が説明された。「全校朝ストレッチ」は毎週月曜日の朝に実施することで落ち着いて一週間を迎えられるという効果が説明された。担当教員が作成したストレッチ指導のビデオを委員全員で視聴した。

また幼保小の円滑な接続のため、スタートカリキュラムの見直しについて説明された。各園で幼児期で育てたい力を小学校で把握し、子供の学びが一層充実するよう努めていく。情報交換会は6月、9月、3月に実施すると説明された。

委員からは以下の質問、意見があった。

- ・スタートカリキュラムの見直しは、どこかに問題があったためか。(永田委員)
- ・作成から時間がたち機能していなかった。(大浦)
- ・小学校から中学校への連携はあるのか。(永田委員)
- ・中学校との部活動交流、出前授業を行っている。(大浦)
- ・小中高への関連性はどうなっているのか。事前の改善として壁を取り除く必要があるのではないか。(永田委員)
- ・校種間の壁をすべて取り除くことは考えていない。壁を乗り越えることは成長につながる。壁を乗り越えられるよう支援することが大切である。(校長)
- ・「井の国」にこだわる必要があるのか(安戸会長)
- ・表記方法を変更したほうが良い。視線の動きを考えて項目の縦横を変更したり、フォントサイズの再考をすべき。(中野委員)
- ・レイアウトについては再考する。学校教育目標に「井の国」を入れた理由はある。地域を踏まえたものであると思われる。(校長)
- ・「きたえ合う子、粘り強く取り組む子」はとても大事なこと。具体的対策で評価につなげて欲しい。(中村委員)
- ・小学校の部活はどういう現状か。(齊藤委員)
- ・希望者が時期に応じて活動(水泳部・陸上部)している。小学生の体力低下は課題ではあるが、井伊谷小では昼休みや放課後に運動場で遊ぶ子が多く、体力づくりにつながっている。(校長)
- ・グランドデザインに委員が意見を述べさせてもらえるのは良い。(中村委員)
- ・個を生かす、個人に合わせてサポートしていくという伸ばし方があっても良いのでは。

（永田委員）

- ・ 個を生かすことは必要である。授業のUD化がそれを表現している。（校長）
- ・ 意見を取り入れてもらえて良かったが、表記構成を考えて欲しい。（中村委員）

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項

司会から、次回会議は、令和6年2月9日（金）午後1時25分から（授業参観を含む）開催する旨の報告があった。議長は高林委員が行うことに決まり、協議の結果全員異議なく承認した。